



# 隊友会市川支部だより

Vol40 平成28年9月号



発行 隊友会市川支部  
編集 支部長 永井 博

## 金井会員が予備自衛官講話！

7月26日、金井会員が、習志野駐屯地予備自招集訓練において「日本創生：美しい日本を取り戻す」との演題で講話を行いました。千葉県隊友会本部の高谷理事役から大変素晴らしい講話でしたと以下のとおり紹介がありました。

美しい国日本とは、「国民が美しい心根を持っている国」である。

諸外国の評価を西洋人から見た、日本人のすばらしい特質を紹介。明治初期の日本人は平民もマナーや気品親切さは素晴らしかった。その後、外国の思想や考えが入って、日本人の正直な心根は近代化と西洋思想により、失われていった。特にその大きな原因の一つとして、戦後の共産主義、占領軍の断罪と社会改造を様々な資料と合わせて紹介。

アメリカの対日心理戦略は、二度とアメリカに歯向かわない国を作るべく日本人の精神的武装解除を実施するとともに神道指令歴史や教育、皇室の伝統を否定をすることにより、日本人の文化や伝統を破壊して、公職追放により空いたポストに共産主義などの新しい思想が入り、左翼が大幅に伸張することになった。

しかし、日本人のすばらしさは今も生きている。東日本大震災での日本人の強靭さに中国も称賛した。震災時の米軍から見た日本人のエピソードを紹介。そこから見えてくるのは、調和を大切にす日本社会。略奪が起きない、隣人を気遣い我慢する。苦しいときは秩序を守る、国民の強さを見せた。日本は今でも人を魅了する国である。ぜひ、皆さんには日本に生まれたことを誇りに思っていて欲しい。日本は敗戦したが、東亜の解放は実現した。

また、戦後、朝鮮戦争を経て、マッカーサは大東亜戦争は日本の自衛戦争と議会で報告。彼は日本の戦争の目的は安全保障上迫られてのことであったと報告した。防衛大学校や現役時代はこのような勉強はなかった。

皆さんには、これからも日本人の良さを考えて欲しい、それが美しい国日本を取り戻すことになる。

・・・と予備自衛官の参加者に伝えて講話を終えられた。



予備自衛官に語る金井会員

## 市川市総合防災訓練に参加！

8月28日、市内39の市立小学校などで大地震を想定した総合防災訓練が行なわれ、支部会員もそれぞれの地区等において参加した。

弘田会員は、鬼高にある第6中学校で実施されたメイン会場に出かけ、以下のような所見を語っています。

- ①いつもながらの防災訓練の域を出ていない。これはこれで価値のあることだとは考えますが・・・。
- ②見せてほしい訓練

迅速な人命救助のためには72時間以内の救助が大切だとはよく言われていることです。そのためには、今年5月の長島復興副大臣（元山古志村村長）のお話のように、駆けつけてくれた自衛隊、警察、消防に生存者がいる可能性があるのは「どこだ」という情報提供がつまり「生存者確認」を我々住民がどうすれば正確に効率よくそして情報が錯綜しないようにできるのかの一案の提示が見たかったと思った。特にマンションの場合の（情報提供の）やり方。

私が今考えているのは

- ・情報集中のための情報所の位置・立ち上げ・その住民への周知
- ・一軒一軒の基礎データと緊急時の情報の確認の有無、確認済みなら確認時間・できれば確認者の記録と記録の更新。この際、本人や家族の自己申告が一番信用できるので自己申告と体制の周知・整備



永井会員は、市川小学校防災拠点協議会委員長として訓練に参加した。市川市では、首都直下地震等の大災害に備え、市立小学校39校を防災拠点として位置づけ、災害時には自助、共助、公助が一体となって、拠点を中心に災害対応ができるよう地域防災力の強化を図っている。今回の訓練でも、防災拠点の開設や、避難所の運営、本部との通信訓練など、「実践型訓練」を行いました。何もわからず避難してきた自治（町）会員150名の方々に理解してもらうのは難しく、多くの教訓が得られた訓練であった。

## 富士総合火力演習を見学

8月28日の陸自総合火力演習と8月25日の「予行」に会員家族、自治（町）会関係者など9名の方々に観覧していただき、「すごかった、よかった、防衛装備と隊員の訓練の凄さに感心した。」「凄くて格好良くて、素晴らしかった。感動しました。」とのメッセージが寄せられました。



## 硫黄島見聞！

硫黄島において米軍のNLP（空母艦載機夜間離発着訓練）が年数回実施されています。その際、防衛弘済会が現地での管理業務希望者を募集しており、西村会員、竹原副支部長が参加しています。西村会員に硫黄島を語っていただきました。

硫黄島訪問は、昭和61年以来であったが、飛行場関連施設をはじめ、庁舎・隊舎・BOQ・BEQ等の施設が見違えるほど立派になっていた。また、水不足が深刻だった島が、生活用水だけはふんだんに使えるようになっていたことも驚きであった。当地において水がいかに貴重であったかは、海軍司令官市丸少将が詠んだ「スコールは 命の水ぞ 雲を待つ 島の心を 余人は知らず」によく表れている。

仕事を終えたある日の午後、兵団司令部壕に入ってみた。入口は坂道でところどころ階段になっている。外の光は届かず懐中電灯なしでは一歩も進めない。途中、広さ6畳ほどの栗林中将の居室跡も残っている。地下壕を通過するだけでも蒸し暑く息苦しくなる。

約40日にわたり凄絶な地上戦を戦って玉砕した日本軍2万将兵を偲び胸をつかれる思いであった。

「国のため 重きつとめを 果し得て 矢弾つき果て 散るぞ悲しき」（栗林中将）



## 新会員紹介

岡 浩 会員

防大27期 海上自衛隊

市川市原木1丁目在住

自衛隊が海外派遣された初のケースとなった1991年のペルシャ湾での掃海活動の際、落合司令のもと、掃海母艦「はやせ」の砲術長を務めた。

今年3月に第2掃海隊群司令で退官。

（毎日新聞ニュース 2016年4月26日より引用）



## 平成28年度市川市戦没者追悼式

「平成28年度市川市戦没者追悼式」が次のとおり実施されますので、ぜひご参加ください。

【日時】平成28年10月19日（水）午後2時～3時

【会場】市川市文化会館 小ホール

【式典次第】

国歌斉唱、黙とう

式辞（市川市長）

追悼のことば

献詠（市川市吟

剣詩舞道連盟）

参加者献花

★参加された方は、支部長までご一報下さい。



## 防衛研究所が市ヶ谷に移転

防衛研究所が市ヶ谷に移転し、9月26日（月）から新庁舎における史料閲覧室が再開される。（写真）

たまたま知人から「写真は、うちの親父が大戦中搭乗していた『陸軍99式軍偵・襲撃機』なる、偵察襲撃機の写真です。親父は帝国陸軍航空隊（独立飛行第83戦隊）の軍人で、大陸からボルネオラブアン島、インドネシアを転戦したそうです。戦史資料などを調べられる資料室などがありましたら、親父の転戦した戦歴なども辿ってみたいなどとも思うこともあります。」と相談され、早速、移転を完了した防衛研究所を紹介した。



戦後71年を経てなお、

史料閲覧室の使命は続いているのだと感じた次第です。



## 10月～11月の行事予定

千葉県護国神社「秋の例祭」の奉仕

清掃：10月8日（土）0930～1130

車両統制：10月10日（月）0815～1130

\*清掃に相田下院、車両統制に永井会員が参加予定

10月19日（水）市川市戦没者追悼式（前述のとおり）

自衛隊観閲式（陸自：朝霞）

総合予行 10月16日（日）

本番 10月23日（日）

\*入場券を入手できましたらメールでご案内します。

10月29日（土）下総航空基地開設57周年記念日★

10月30日（日）千葉県殉職隊員慰霊祭★

11月3日（祝）市川市市民まつり（大洲防災公園）

11月11日（金）～13日（日）自衛隊音楽まつり

11月17日（木）市川市講演会（市川文化会館13：30～）

上村国立国府台病院院長「高齢者の健康維持と病氣予防」

11月26日（土）松戸駐屯地創設記念日★

★印の行事に市川支部代表で参加いただける方は、支部長までご連絡下さい。（先着順）